

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 つるがしま里山サポートクラブ

27A-17

代表者：代表理事 小澤 邦彦

URL : <http://www.satoyamasupport.com/>

1. 活動が必要とされた状況

当クラブは、設立から 20 年を迎えることができました。この間、設置してきた各種機材の老朽化が進み、チェーンソーの補充や機器の清掃・整備用ブロワーの導入、さらにはユニフォームの更新・追加が必要となっていました。

また、本年度は突風などの影響により、市民の森で多くの倒木が発生し、その処理にチェーンソーが活躍しました。さらに、倒木した樹木を有効活用するため、地域の福祉施設などへのベンチ寄贈プロジェクトにも取り組みました。本年度は、小学校の地域教育の一環として校庭に設置したいという要望を受け、倒木から作ったベンチを 4 台寄贈しました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- (1) 樹林地内の危険な枯れ木の伐採や除草を、五味ヶ谷および藤金市民の森で実施。

6 月 22 日、8 月 20 日実施 計 33 名参加

- (2) 倒木の製材・ベンチづくり

五味ヶ谷や藤金市民の森の倒木を整理・製材し、ベンチを製作。計 29 名参加

12 月 5 日、12 月 19 日、1 月 19 日実施

- (3) ベンチを鶴ヶ島第二小学校へ寄贈

会員が市民の森の倒木を運搬・製材し、ベンチ加工に取り組み、4 台のベンチを校庭に設置。

生徒と地域のお年寄りが交流できる場として活用され、感謝の言葉をいただきました。

1 月 28 日実施 計 33 名参加



3. 活動の成果

機材の更新により、チェーンソーによる倒木処理の効率が向上し、ブロワー機器による機器整備の効率も改善しました。

また、市内の学校や福祉施設へのベンチ寄贈は、本年度の 4 台を含め、累計 16 台となりました。今後は、市民の森の資源を生かし、「ベンチのあるまちづくり」を進めるとともに、急速に高齢化が進む鶴ヶ島市における高齢者の歩行環境の整備や、学校との連携による地域教育にも取り組んでいきたいと考えています

4. 今後に残された課題

- ・ 市民の森の倒木などの資源を活用し、地域のまちづくりに取り組んでいきます。
- ・ 小中学校からの自然体験学習に関する協力要請が増加しています。
- ・ 市民の森の減少対策に向け、市民・企業・行政が連携した新たな体制の強化が不可欠となっています。
- ・ 行政や市内の各種団体などからの協力依頼が増え、連携活動が拡大しています。
- ・ 活動の拡大に伴い安全に伐採する用具、道具などが不足しています。